

I 研究の構想

学校教育目標

心身共に健康で、かしこく、やさしく、たくましく
生きる子どもの育成

目指す児童の姿

- 「正しく受け取る力（読む・聴く）」を使って自ら考える子ども
- 話し合い活動や書く活動で考えを表現し、互いに確かめ合い、認め合う子ども
- 目的意識をもって学習に取り組み、学びへの意欲を高めることができる子ども

研究主題

学びに向かう力を支える読解力の育成
～国語科を中心とした授業づくりの工夫～

研究仮説

国語科の授業において、言葉による見方・考え方を働かせる言語活動を設定し、リーディングスキルテストの6つの視点に基づいた手立てを取り入れるとともに、話し合い活動や書く活動の充実を図ること、また、語彙力をつける環境づくりや読書推進を行うことによって、学びに向かう力を支える読解力が育つであろう。

授業づくり

- 言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり
- ORST 6分野の視点に基づいた授業づくり
- 話し合い活動・書く活動の充実
- 語彙力の育成

環境づくり・
分析

- 教室環境
- 学習規律の定着
- 校内掲示
- ORST 実施・分析
- 学力調査分析

家庭との連携
読書推進

- 家庭学習の習慣化
- アウトメディアチャレンジ
- 読書タイム
- 読み聞かせ
- 読書ビンゴ

1. 「学びに向かう力」とは

本校の「学びに向かう力」の定義

学ぶことに興味・関心をもち、「自分ごと」と捉え、見通しをもって粘り強く取り組む力。

また、自らの学習を振り返り、次の学びへつなげようとする力。

2. 「読解力」とは

教科等の枠を越えて、各教科等の土台となる能力

→文章を正確に、速く理解できる。

→文章と図、表、グラフ等の関係を捉えたり、知識をもとに推論したりすることができる。
(長崎県読解力育成プランより)

本校の「読解力」の定義

教材を正確に読み取り、読み取った内容や筆者の意図に対して自分の考えをもち、その考えを目的に応じた方法で表現することができる力。

3. RST 6分野（7項目）の視点について

①	係り受け解析 主語と述語をつなげられるか ・構文を正しく解析し、「誰が」「何を」「どうした」がわかる。	文構造を正確に把握できるかを問う。	2つの分野が解けるようにならないと教科書等を読むことが困難である。
②	照応解決 「それ」が指すものがわかるか ・「それ」「これ」など指示代名詞が指し示すものがわかる。 ・省略されている主語、目的語がわかる。		
③	同義文判定 2文が同じ意味かわかるか ・2つの文を比較し、それらが同じ意味を表しているかどうかわかる。		
④	推論 常識を使って判断できるか ・既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する。		
⑤	イメージ同定 図の意味が説明できるか ・文がどのようなことを示しているのか、具体的にイメージできる。		
⑥	具体例同定 (理数と辞書の2項目) 言葉や算数用語の定義がわかるか ・概念または用語の定義を読み、それがどのような状況に当てはまるかを具体的に認識できる。		

1 授業づくり

(1) 言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり

①質の高い言語活動の設定

- ・身に付けさせたい資質・能力を具体化・顕在化させる言語活動。
- ・子どもたちにとって課題解決の過程となる言語活動。
- ・子どもたちが主体的に学ぶことができる言語活動。

②言葉による見方・考え方を働かせる手立て

	手立て	例
試す	説明を聞くだけでなく、実際にやってみることで、直感が働く。 具体的な活動の中で、問いを生み出し、言葉を意味付けていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化する。 ・説明文を並び替える。
声にする	文章が書けないときには、書く前に話してみる。 読みと音読がつながっていることを自覚できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文を声にする ・反対意見について話し合う。 ・振り返りを声にする。
選ぶ	選択肢を示し、自分の判断の根拠や理由付けに自覚的になることで思考を深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語を選ぶ。 ・「どちらの方が～か?」「どれが一番～か?」選ぶ。
比べる	比べる対象があることで、よりその違いを実感することができ、論理的な思考へと活動を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを比べる。 ・物語の始めと終わりを比べる。 ・モデル文と比べる。
書く	直感的に書き出し、拡散的思考から収束的思考へ移行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・順序よくメモを書く。 ・情報を絵や図で整理して説明の仕方を考える。
指摘する	あえて間違いを提示して違和感を抱かせ、整合性の取れた具体案を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・間違った表記の読みにくさを感じる。 ・間違った主語と述語の関係に気付く。
遊ぶ	遊びの中で行われる言語活動のよさを価値付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとりで対話の力を付ける。 ・質問ゲームで聞き手の役割を体験する。

(2) RST6分野の視点に基づいた授業づくり

①教師が、RSTの視点で教科書を読む

- ・文の構造を捉えにくい文章について、主語、述語、目的語などを明らかにしておく。
(①係り受け解析)
- ・文章を読む際につまずくと予想される語句はないかを確認する。(①係り受け解析)
- ・省略されている主語や、指示語が指す部分を明らかにしておく。(②照応解決)
- ・教科書のどの文章が掲載されている図やグラフ等と対応しているか明らかにしておく。
(⑤イメージ同定)

②授業の中にRSTの視点に基づいた手立てを意識的に加える

- ・主語、述語、目的語、指示語を確認する。(①係り受け解析②照応解決)
- ・定義を基に具体例を考えたり、同義となるように言い換えたりする活動を設定する。
(③同義文判定 ⑥具体例同定)
- ・文章に書かれていることを「見える化」するため、印付けをする。单元テストにも印付けの習慣を付ける。
(①係り受け解析 ②照応解決)
- ・挿絵、図、表と対応する言葉や文を線でつなぐ。(⑤イメージ同定)
- ・文章から読み取ったことを絵や図、表などに表す。(⑤イメージ同定)

③書く活動や話し合い活動などアウトプットの機会を設定する

- ・ペアやグループでの話し合い活動を意図的に設定する。
- ・視点(学習内容や自己調整力等)を明確にして振り返りをする。
- ・「とても」「たくさん」「すごく」といったあいまいな表現ではなく、具体的な言葉や図を用いて表現できるようにする。

④教科書を音読する

- ・文章を読むときには、「文字を音に対応付け、その音を土台として『意味』にたどり着く」という過程があるため、すべての教科で教科書の音読に取り組む。

单元テスト等における印付けのきまり(主に国語科、社会科)

- ①問題文から先に読む。
- ②問題文と本文で、同じ言葉が書いてあるところを赤鉛筆で四角囲みする。(定規を使う必要はない。)
- ③四角で囲んだところを赤線で結ぶ。
- ④問題文中の問われていることを赤鉛筆で四角囲みする。
- ⑤单元テスト等の始めに①～④の活動を行う。

本校が考える印付けのよさ

- ・ほとんどの子が自力で作業できる。
- ・本文中のどこに答えが書いてあるか、視覚的に見付けやすくなる。
- ・情報が精査される。

(3) 語彙力の育成

①言葉の貯金箱

- ・単元の始めに意味調べの時間を設定する。言葉の意味を確認しながら学習を進める。
- ・調べたことは単元ごとに学習用端末に保存する。

②視写・聴写

- ・板書する際、問題文や「めあて」などは教師が読み上げながら書く文を同じスピードで書き写す。
- ・教科書の文章などを視写する活動を取り入れる。

③国語タイムの活用

- ・木曜日の朝15分間を国語タイムとし、学年に応じた課題に取り組む。
 - ア. 文構造に関する問題（係り受け解析、照応解決のスキルを高める。）
 - イ. 視写
 - ウ. 聞くトレーニング

2 環境づくり・分析

(1) 基本的学習習慣

①教室環境

- ・「話し方・聞き方名人」「声のものさし」「発表の約束」を壁面に掲示する。

②基本的学習規律の定着

- ・「学びの下敷き」を全児童に配付し、活用する。
- ・学年に応じた基本的学習規律を設定し、共通意識をもって取り組む。
- ・学期ごとに振り返りチェックを行い、次の学期に生かす。

③学び合いの進め方

- ・学び合いを深めるグループ学習に取り組む。
- ・ペア学習とグループ学習の進め方の共通理解。

(2) 校内掲示

①自主学習コーナー

- ・学級ごとにお手本となるノートをポートフォリオ化して支援に活用する。
- ・毎月各学級から2名ずつ自主学習ノートの取組を掲示して紹介する。

②ことばコーナー

- ・各学年の廊下に掲示板を設置し、言葉に興味をもつような内容（ことわざ、慣用句、熟語など）を掲示する。

③広がることば

- ・低、中、高学年別に、「気持ちを表すことばカード」を作成し、活用する。

④新聞コーナー

- ・小学生新聞コーナーを高学年教室前の廊下に設置し、いつでも新聞に親しめるようにする。

(3) 調査・分析

①「RST（リーディングスキルテスト）」の実施・分析

- ・R4 年度 5 年生、R5 年度 6 年生（同一集団）に実施。

②学力調査の分析

- ・全国学力・学習状況調査（6年）、長崎県学力調査（5年）、南島原市学力調査（全学年）

③「国語科学習」に関する意識調査

3 家庭との連携・読書推進

(1) 家庭との連携

①家庭学習の習慣化

- ・「家庭学習の手引き」「自主学習のススメ」の配付、家庭への啓発。

②アウトメディアチャレンジ

- ・アウトメディアチャレンジの目的を明確にし、個人の目標を立てる。
- ・年間4回、アウトメディアチャレンジ週間を設定し、集計・分析結果を保護者と共有する。



<家庭学習の手引き>



<自主学習のススメ>

<アウトメディアチャレンジカード>

(2) 読書推進

①読書タイム

- ・毎週月曜日・火曜日の朝 15 分間全校一斉に読書に取り組む。

②読み聞かせ

- ・職員での読み聞かせ。
- ・PTA 母親部と連携した読み聞かせ。
- ・「家読（うちどく）カード」

③読書ビンゴ

- ・多様なジャンルの読書を促す。

Ⅲ 研究の成果と今後の取組

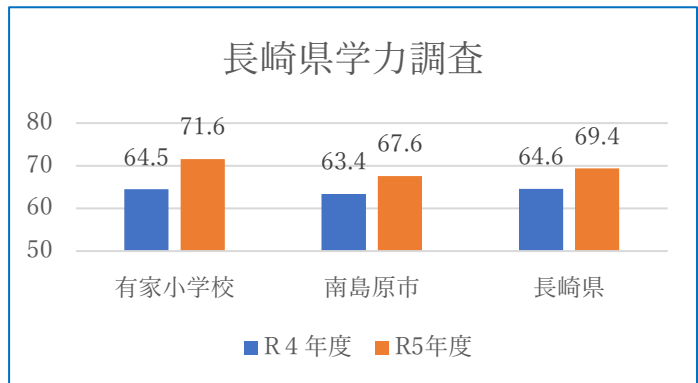
1 成果

(1) 県学力調査、全国学力・学習状況調査

長崎県学力調査結果

	R4年度	R5年度
有家小学校	64.5	71.6
南島原市	63.4	67.6
長崎県	64.6	69.4

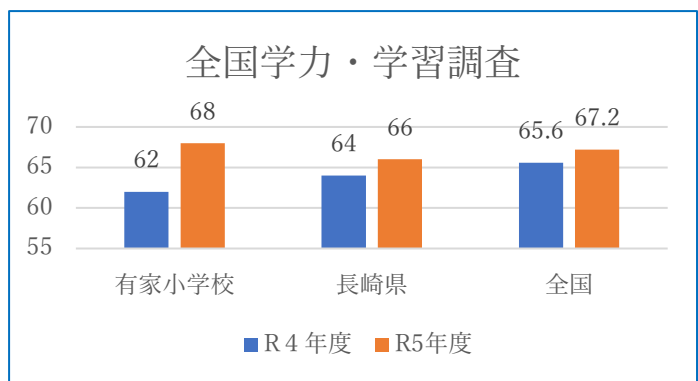
※ 同一学年



全国学力・学習状況調査結果

	R4年度	R5年度
有家小学校	62.0	68.0
長崎県	64.0	66.0
全国	65.6	67.2

※ 同一学年

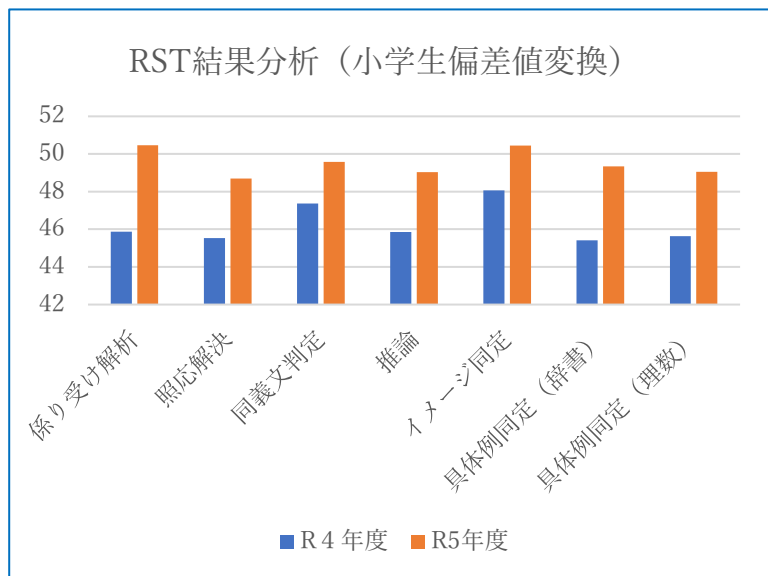


(2) RST

RST 結果分析(小学生偏差値変換)

	R4年度	R5年度
係り受け解析	45.87	50.47
照応解決	45.53	48.69
同義文判定	47.37	49.58
推論	45.85	49.04
イメージ同定	48.07	50.45
具体例同定(辞書)	45.41	49.35
具体例同定(理数)	45.63	49.05

※ 同一集団



○学力調査(全国、県)、RSTの結果はともに向上している。

○全国学力・学習状況調査では、特に「話すこと・聞くこと」の正答率が76.4%、記述式の問題が52.8%と高かった。ペアやグループ学習での学び合い、キーワードを用いてまとめたり振り返りをしたりすることの成果が現れていると考えられる。

○無解答率が低くなったことから、学びに向かう力が育ってきていることがうかがえる。

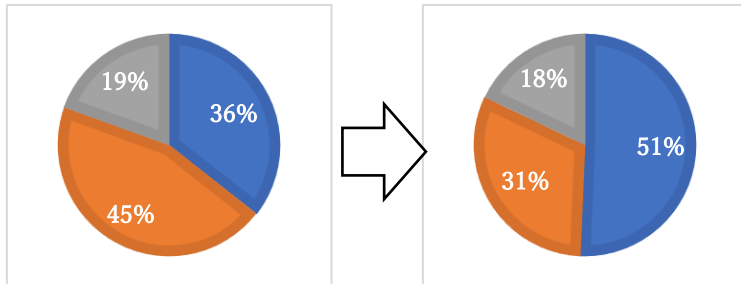
○RSTでは、係り受け解析の力が大きく向上した。日頃の授業で、主語・述語の関係を意識して指導してきた成果であると言える。

(3)「国語科学習」に関する意識調査（対象：1～6年の全児童）

※ ■ あてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない

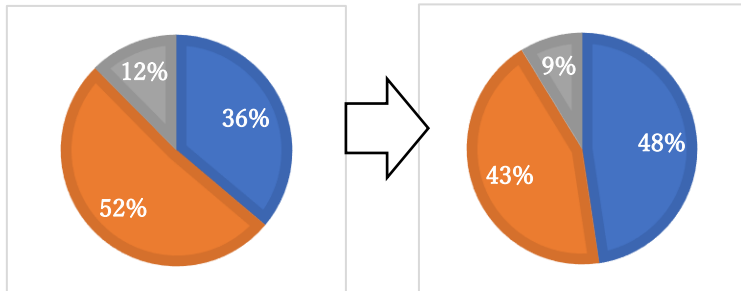
R4年度1学期 → R5年度1学期

①国語の勉強は好きだ



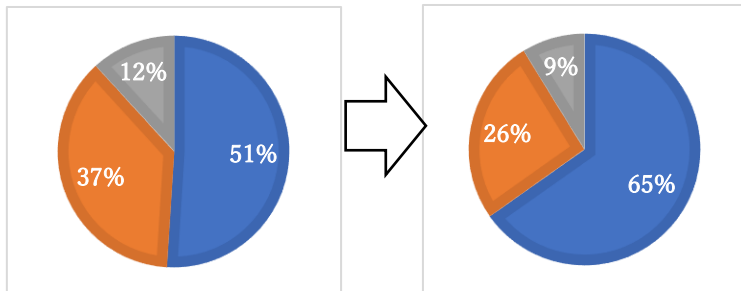
○文章を読んで登場人物の気持ちを考えることは好き。
○いろいろな言葉や漢字を知ることができて楽しい。
▲漢字が苦手だ。

②国語の内容がわかる



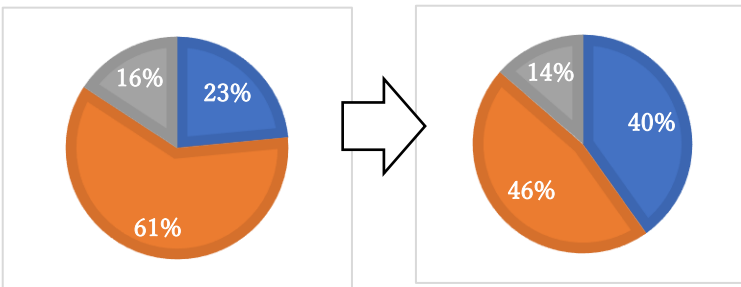
○登場人物の気持ちが読み取れるようになった。
○話を聞くのが楽しかった。
○国語辞典を引くことが楽しい。
▲作文が難しい。

③読書が好き



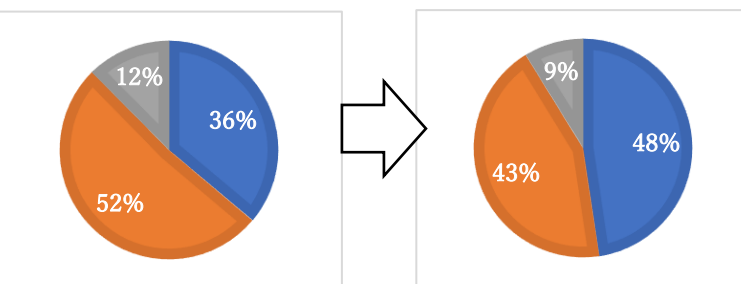
○物語などを読んでどうなるのか予想することが楽しい。
○いろいろな不思議なことを知ることができる。
○長い本も読めるようになった。

④自分の考えを伝えるように話す



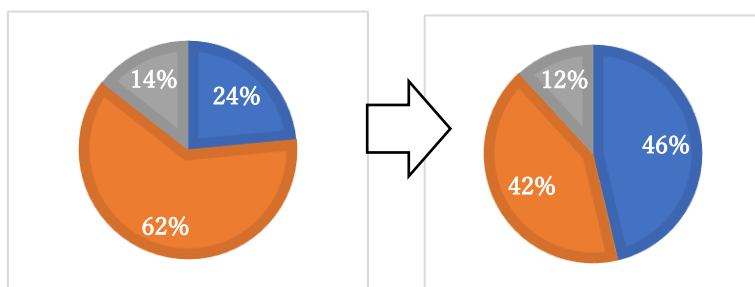
○いつ、どこでなど相手に詳しく伝えるように意識している。
○ペアがちゃんと聞いてくれて話しやすかった。
▲自信がなくて発表することができない。

⑤自分の考えと比べながら聞く



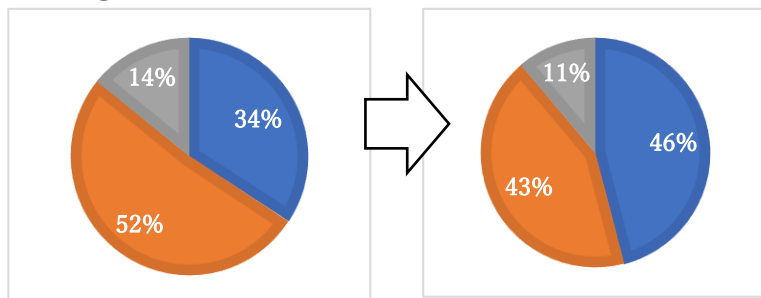
○違うところを見つけたり、いろんな考えを聞いたりすると面白い。
○他の考えに気付くことができる。

⑥考えの理由がわかるように書く



- 自分の考えを具体的な理由を加えて書いている。
- 書くことができないときも線を引くことができた。
- ▲考えが分かって理由が頭に浮かばない。

⑦内容を理解しながら読む



- 登場人物の考えなどを理解しながら読んでいる。
- 間違いがないか理解しながら読んでいる。
- ▲テストで言葉が抜けていた。

(4) 子どもたちの変容

- 「係り受け解析」「照応解決」のスキルを意識した手立てを取り入れることで、主述の関係や指示語、接続語に着目して文章を読む姿が見受けられた。
- 視写や聴写に取り組み、速く、丁寧に書くことができるようになった。
- 印付けをして文章に書かれていることを「見える化」する活動を積み重ねることを通して、言葉に着目し、大事な言葉に気付く力が身に付いてきている。
- ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることで、学び合いの姿が見受けられた。
- 振り返りの視点をもとに書いたり発表したりすることで、学びの確認ができるようになった。
- 「めあて」と「まとめ」のつながりを意識するようになった。

2 今後の取組

- 言葉による見方・考え方の見通しをもつことができる発問を精選する。
- ペアやグループでの意見交流の場を増やし、考えの伝え方や子ども主体でのまとめ方を身に付けることができるようにする。
- 語彙を豊かにし、「書く」力を伸ばす。
- ICTの効果的な活用を進め、子どもたちのスキルアップを目指す。
- 家庭との連携を更に深め、家庭での学びに向かう環境づくりや、アウトメディア、読書推進、ICTの利活用等に取り組む。